

■今井正 映画監督。社会派映画を主に手掛け、戦後日本映画の左翼ヒューマンズムを代表。

いまいただし

明治天皇没・1912＝ 東京府豊多摩郡渋谷町で、霊泉院住職今井六助の長男に生まれる。母はカネ。姉と弟の三人姉弟。

生後すぐ中耳炎に罹り、右耳の聴覚を失う。

本格政党内閣1918＝ 6歳：渋谷町の臨川小学校に入学。先生の月次講話に感激する一方、習字と図画が苦手であった。

原敬首相暗殺1921＝ 9歳：

護憲三派圧勝1924＝12歳：卒業。一中受験に失敗、級友の多くが麻布中学に行くなか、家の都合で、芝中学に入学、

治安維持法・1925＝13歳：盲腸炎に罹る。父の財布の金を盗んで映画を見に行き始め、

円本時代始・1926＝14歳：武蔵野館で『嘆きのピエロ』を見、チャプリンの映画のほとんども見るとし、

父の跡を継ぐのを避けるべく猛勉強して、

世界恐慌・・・1929＝17歳：水戸高校に入学、籠球部に入る。(戦旗)に感激、学内の秘密組織に入り活動に奔走。鈴木まつと出会う。

海軍軍縮条約1930＝18歳：特高に連行され、1年間の停学処分。持病の中耳炎を根本的に治療すべく入院。

満州事変・・・1931＝19歳：

五一五事件・1932＝20歳：学内民主化闘争に参加し再び留置されるも、

国際連盟脱退1933＝21歳：卒業し、東京帝国大学文学部美術史科に入学。またも大学内組織で運動して本富士署に検挙され、

帝人疑獄事件1934＝22歳：停学処分を受けて中退。まつと結婚、長女が誕生。京都[J.O.スタジオ]の助監督試験を受けて合格し、

芥川直木賞始1935＝23歳：妻・娘・妻の母と京都に移住し、入社、同期に市川崑がいた。志波西果「地雷火組」の助監督務める。

二二六事件・1936＝24歳：長男が誕生。伊丹万作「新しき土」の製作に参加し、石田民三「花火の街」のチーフ助監督に就く。

日中戦争始・1937＝25歳：以後も助監督務めるうち、[J.O.]が合併して(東宝映画)が設立されると、早くも監督に指名され、異例のスピード出世となるが、処女作は出演俳優が兵役に取られるなどして完成が大幅に遅れ、

健保+総動員 1938＝26歳：次女が誕生。

第二次大戦始1939＝27歳：*ようやく公開され、「沼津兵学校」が監督デビュー作となる。「われ等が教官」。東宝の東京撮影所に転籍、藤本真澄と出会う。東京目黒区に移住。

大政翼賛会・1940＝28歳：「多甚古村」「女の街」「閣下」、

日米開戦・・・1941＝29歳：三女が誕生するも翌年夭折。「結婚の生態」。日米開戦後は、自らの信念とは別に戦意高揚映画を製作し、

・・・・・1942＝30歳：「望楼の決死隊」のロケで何度も朝鮮に渡るなど、

創価学会検挙1943＝31歳：四女が誕生。「軍国主義プロパガンダ映画『望楼の決死隊』が注目を集める。召集されるもすぐ除隊。

年金+総武装 1944＝32歳：「怒りの海」、

敗戦・・・1945＝33歳：五女が誕生。大空襲に遭遇。「愛と誓ひ」。戦後は、一転して民主主義啓蒙映画を手掛け、

新憲法公布・1946＝34歳：「財閥の腐敗を描いた戦後第1回作品『民衆の敵』で第1回毎日映画コンクール監督賞。榎本健一と入江たか子主演の人情喜劇『人生とんぼ返り』も手掛ける。CIEの映画演劇課長コンデに出会う。

新憲法施行・1947＝35歳：「地下街二十四時間」、

極東裁判決 1948＝36歳：この年ピークとなった東宝争議では中心的役割をし、

三大事件・・・1949＝37歳：「女の顔」。*石坂洋次郎原作「青い山脈」「続・青い山脈」を監督、同名の主題歌とあいまって大ヒットし、キネマ旬報ベストテンの第2位、第一級の監督と目されるようになり、東宝を辞めフリーになり、

朝鮮戦争始・1950＝38歳：「続く「また逢う日まで」でベストテン第1位に輝くが、東宝争議の中心的人物として映画会社5社から締め出され、屑屋開業、同様に解雇された左翼系映画人たちが次々と立上げる独立プロの皮切りとして、

独立回復・・・1951＝39歳：山本薩夫、亀井文夫らと独立プロ(新星映画社)を創立、前進座と組んで、「どこい生きてる」を発表。

メーデー事件・1952＝40歳：母が死去。妻と離別。「山びこ学校」「原爆の図」。

テレビ放送始・1953＝41歳：新興(東映)に招かれ「ひめゆりの塔」を製作、自身は出来に満足しなかったものの大ヒットとなって、{東映}の基礎固めに一役。再び独立プロに戻り、文学座と組んだ樋口大祐原作「にごりえ」がベストテン第1位、

55年体制始・1955＝43歳：中村ツヤと再婚。府中に転居。*「由紀子」「愛すればこそ」。高崎市民オーケストラ描いた「ここに泉あり」、

国連加盟・・・1956＝44歳：*日本における初の裁判批判映画となる正木ひろしの手記に基づく「真昼の暗黒」を発表し、カルロヴィ・ヴァリア国際映画祭で「世界の進歩に最も貢献した映画賞」など、ヒューマンズム映画の傑作を次々発表。

なべ底不況・1957＝45歳：*農村の貧困描く自身初のカラー「米」、原爆症の少女と不良少年の恋「純愛物語」はベルリン映画祭監督賞、

美智子妃・・・1959＝47歳：黒人との混血姉弟を引取って育てる老婆の交流を描く、「人種差別批判の「キクとイサム」は代表作となる。

安保闘争・・・1960＝48歳：「白い崖」、

タイタイ病始・1961＝49歳：父が死去。在日朝鮮人の若い漁師を通して李承晩ライン問題描く「あれが港の灯だ」も話題に。

全国総合計画1962＝50歳：TV「波」を演出。「喜劇」に「ぼんのお婆あちゃん」、

TV宇宙中継始1963＝51歳：封建社会を描く「武士道残酷物語」で、ベルリン映画祭金熊賞。

東京リビッド 1964＝52歳：「越後つづいし親不知」「仇討」、

いざなぎ景気1966＝54歳：TV{今井正アワー}5本、

美濃部都知事1967＝55歳：TV{泣いてたまるか}4本、「砂糖菓子が壊れるとき」、

震ヶ関ビル・1968＝56歳：「不信のとき」、

全共闘ビーク・1969＝57歳：「{ほろぶ映画}を創立し、「橋のない川 第一部」でモスクワ国際映画祭ソ連映画人連盟賞受けるも、

大阪万博・・・1970＝58歳：「橋のない川 第二部」を巡って部落解放同盟から批判を受け、

ドルショック・・・1971＝59歳：「姉という女」完成し、モスクワ国際映画祭出品のため訪ソ後、資金難から解散、

日中国交回復1972＝60歳：「あゝ声なき友」。古巣の(東宝)に招かれて、反戦映画「海軍特別年少兵」を発表。

石油ショック1973＝61歳：

角栄金脈辞任1974＝62歳：部隊「越後つづいし親不知」演出。「小林多喜二」がサンレモ映画祭グランプリ、

クランブル事件1975＝63歳：

田中角栄逮捕1976＝64歳：「妖婆」、

JALハイジャック・1977＝65歳：「前年の作品「あにいもうと」がインド国際映画祭で最優秀劇映画賞。

革新大敗北・1979＝67歳：「子育てごっこ」、

・・・・・1981＝69歳：「ゆき」、

中曽根内閣・1982＝70歳：*リメイク版「ひめゆりの塔」。胃癌のため入院し手術。

・・・・・1984＝72歳：

バブル始・・・1986＝74歳：眼の奇病で手術するも右眼失明。

ソ連崩壊・・・1991＝79歳：イタリア映画におけるネオ・リアリズムの影響を受けた映画監督の一人で、厳しい演技指導や映像へのこだわりでも知られ、日本共産党員であり、娯楽色豊かなヒット作を連打し、党派を超えた巨匠として日本映画に君臨した点では、山本薩夫と双壁ながら(戦中に戦意高揚映画の秀作を撮っているところまで相似)、最後まで大手からの監督依頼が絶えなかった山本に比べると、晩年は不遇だったが、

パリのシネマテークで今井正特集の上映があり、最後の作品「戦争と青春」がモントリオール世界映画祭エキュメニカル賞となり、各地での自主上映の挨拶回り中、埼玉県草加市ででも膜下出血で倒れ、没した。没後、日刊スポーツ映画大賞特別賞。

「今井正映画読本」、「この人どんな人」、インターネット、